

[原著論文]

看護学科における推薦入学者の大学入学前課題学習前後の
学習への動機づけの変化および一般入学者との比較

石山香織, 新谷恵子, 渋谷優子, 荒木玲子, 栗原弥生

キーワード：学習への動機づけ, 入学前課題学習, 看護大学生, 推薦入学

Changes in Learning Motivation before and after Pre-entrance Assignments for
Nursing School Students Admitted on Recommendation Compared to Students
who Entered through General Admissions

Kaori Ishiyama, Keiko Shintani, Masako Shibuya, Reiko Araki,
and Yayoi Kurihara

Abstract

The objectives of the present study were to investigate changes in learning motivation before and after pre-entrance assignments for 14 students admitted on recommendation to nursing school A, and to compare the obtained data to those for 33 students who entered through general admissions. A survey was conducted using an originally developed 15-item questionnaire. The results for students admitted on recommendation showed a reduction in learning motivation for one item (related to knowledge acquisition through reading) immediately after pre-entrance assignments compared to before the assignments; however, no significant differences were observed before and after assignments for other items. Compared to general admission students, those admitted on recommendation tended to have higher motivation for five items (related to human psychology and communication skills) immediately after the assignments; no significant differences were observed for other items. The findings suggest that while pre-entrance assignments do not increase learning motivation, they may help to maintain motivation. Because the learning motivation of students admitted on recommendation for items related to human interactions increased after pre-entrance assignments, the capability of modified pre-entrance assignments to further enhance motivation should be investigated.

Keyword : learning motivation, pre-college assignment, nursing college student,
admission on recommendation

新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科

[連絡先] 石山 香織
〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL・FAX : 025-257-4552
E-mail : ishiyama@nuhw.ac.jp

要旨

本研究では、A大学看護学科における推薦入学者14名を対象として、入学前課題学習前後の学習への動機づけの変化、および一般入学者33名との比較を明らかにすることを目的とした。研究者らが独自に作成した15項目からなる質問紙を用いて調査した。その結果、推薦入学者では読書による知識獲得に関する1項目が入学前課題学習前に比べて学習直後には低下していたが、その他の項目では学習前後で有意差はなかった。一般入学者との比較では人の心理やコミュニケーション能力に関する5項目で推薦入学者が入学前課題学習直後に高い傾向にあったが、その他の項目では有意差はなかった。入学前課題学習には学習への動機づけを向上させる効果はないものの、学習への動機づけを維持する作用が推測された。推薦入学者は入学前課題学習前より人とのかかわりに関する学習への動機づけが高いものと推測され、それを強化できるような課題への変更を検討する必要性が示唆された。

I はじめに

現在大学の推薦入試は全国的に行われている。推薦入試は大学側にとっては早期に学生を確保できるメリットがある一方、推薦入試合格者にとって合格から大学入学までの期間は約4ヶ月であり、この期間67%の学生が学習を行わず¹⁾、大学入学以前での学習意欲の低下といった問題が指摘されている²⁾。そこで、学習への動機づけを高めるべく各教育機関で入学前にさまざまな取り組みが行われている^{3) 4)}。このような取り組みのなかでも、研究者らは看護系大学への入学前に推薦図書に対する感想文を課すという入学前課題学習⁵⁾に着目し、先行研究においてこのような入学前課題学習による感想文を内容分析した結果、具体的な学習への動機づけの内容が抽出された⁶⁾。これらの学習への動機づけは、乳児期の成長発達や育児、ケアの意味・本質の探究といった推薦図書の内容を顕著に受けた内容であったことから、入学前課題学習によって新たな学習への動機づけが喚起されたと考えられた。ところが、この研究結果に基づき作成した質問項目による調査では、入学前課題学習を実施しなかった一般入学者の方が学習への動機づけが高い傾向にあり、推薦入学者は入学前課題学習によって喚起された学習への動機づけが入学前課題学習実施6ヶ月後には維持されていないことが推測された⁷⁾。この先行研究は、入学前課題学習実施後6ヶ月経過した時点での調査であり、入学前課題学習実施直後および実施前には調査を行っていないために、入学前課題学習以外の様々な因子に影響を受けている可能性が推測され、入学前課題学習を実施することによって形成される純粋な学習への動機

づけの効果には言及できなかった。

したがって本研究では、看護学科における推薦入学者の大学入学前課題学習による学習への動機づけの効果を検討し、学習への動機づけ向上に有効な入学前課題学習のあり方の示唆を得るため、看護学科における推薦入学者の大学入学前課題学習前後の学習への動機づけの変化および一般入学者との比較を明らかにする。

II 用語の定義

入学前課題学習：推薦入試合格後に提示された推薦図書を読み、読書後の感想、これからの自分の興味、関心について入学前までにレポートにまとめることをさす。なお、今回の推薦図書は、いのち、日常生活、人生や生き方、ケアなど身近な問題を考えるような内容である以下の5冊であった。

推薦図書；神谷美恵子：こころの旅

ロリー・ヘギ／板倉克子訳：みじかい命を抱きしめて

日野原重明：新生き方上手

小西行郎：赤ちゃんと脳科学

星野富広：新版 愛、深き淵より

学習への動機づけ：学習活動は決して学力向上の目的や学校での学習といった文脈にのみ依存するわけではなく、特に青年期以降の学習においては学習者の生き方そのものによって多様に意味づけや価値づけがされている⁸⁾ことから、本研究では学習を学習活動全般さらには生活全般にまで範囲を拡張し、学習を広い視点で捉え、学習への動機づけを「学習への興味および、学習活動全般に対する意欲」と定義する。

III 研究方法

1 調査対象

対象者は入学前課題学習を実施したA大学看護学科2007年度推薦入学者40名のうち本研究への参加に対する同意の得られた者とした。さらに、入学前課題学習を実施しなかった一般入学者45名のうち本研究に対する同意の得られた者を比較対照群とした。

2 測定用具

測定用具は、研究者らが先行研究で明らかにした学習への動機づけの具体的内容である20サブカテゴリ⁹⁾に基づき作成した15項目からなる質問紙であった¹⁰⁾。回答は「非常に思う」、「やや思う」、「どちらともいえない」、「あまり思わない」、「全然思わない」の5段階のリッカート法を用いた。質問の得点が高いほど学習への動機づけが強いことを表す。前段階の調査ではChronbach α 係数は0.843であり、高い内的整合性が得られている。

他に、対象者の特性に関する質問項目として「年齢」、「性別」、「最終学歴」、「受験した入学試験の種類（推薦入試、一般入試）」、「自主的に行っている学習内容」、「1日の学習時間」、「読書頻度」等を加えて質問紙を構成した。

3 調査時期と調査方法

1) 第1回：2007年1月

研究参加の同意の得られた推薦入学決定者を対象に入学前課題学習実施前に質問紙を郵送し、1週間後までに返送してもらい回収した。

2) 第2回：2007年4月

研究参加の同意の得られた入学直後の推薦入学者および一般入学者を対象に質問紙を配布し、その場で回答の後研究参加者に直接回収箱に投函してもらい回収した。

3) 第3回：2007年7月

第2回目と同様に研究参加の同意の得られた推薦入学者および一般入学者を対象に、前期授業終了時に質問紙を配布し、その場で回答の後研究参加者に直接回収箱に投函してもらい回収した。

4 分析方法

推薦入学者と一般入学者の特性の比較には t 検定、 χ^2 検定を用い、推薦入学者および一般入学者それぞれの3回の調査時期における特性比較には Wilcoxon 符号付順位検定、McNemar 検定を用いた。

推薦入学者の3回の調査時期での学習への動機づけの比較には1月を基準とした Dunnett 型の多重比較として Wilcoxon 符号付順位検定 (Bonferroni の補正)、一般入学者の2回の調査時期での学習への動機づけの比較には Sign 検定を用いた。また、4、7月における推薦入学者と一般入学者の学習への動機づけの比較には Mann-Whitney の U 検定を用いた。なお、統計解析の分析対象はすべての調査時期で回答用紙の回収が得られ、かつ15質問項目のすべてに回答が得られた者とした。分析には SPSS15.0J for windows を用い、有意水準を5%未満、有意傾向を10%未満とした。

5 倫理的配慮

本研究の実施に際し、対象となる推薦入学決定者には研究の趣旨やプライバシーの保持の厳守、研究目的以外には使用しないこと、研究途中の参加中止の自由および中止の際には何ら不利益が生じ得ないことについて説明した書面を郵送し、同封の同意書の返送により同意を文書により得た。対象となる一般入学者には入学後に同様の書面と口頭にて説明し、同意を文書により得た。

IV 結果

研究参加の同意の得られた推薦入学者27名 (67.5%) および一般入学者39名 (86.7%) に質問紙を配布した結果、すべての調査時期で回答用紙の回収が得られたのは推薦入学者23名 (回収率: 85.2%)、一般入学者35名 (回収率: 89.7%) であった。そのうち質問紙の回答に欠損がある者を除き、推薦入学者14名および一般入学者33名を分析対象とした (有効回答率それぞれ60.9%、94.3%)。

1 推薦入学者と一般入学者の特性の比較

対象者 (n=47) の特性を表1に示した。対象者は2007年度A大学看護学科入学生で、最終学歴は全員が高等学校卒業であった。平均年齢は18.1歳 (SD=0.4) であり、男性11名 (23.4%)、女性36名 (76.6%) であった。

7月の自主的に行っている学習内容のうち高校の授業の復習であった者は推薦入学者が21.4%、一般入学者が3.0%で、推薦入学者が有意に高い傾向にあった ($p < 0.1$)。一般入学者は4月から7月にかけて学習しない者は有意に減少し ($p < 0.01$)、英語と看護に関する学習はそれぞれ4月に比べ7月には学習していた者が有意に多かった ($p < 0.1$, $p < 0.01$)。なお、推薦入学者の1月から7月における自主的に行っている学習内容に関しては有効ケースが不十分なため統計量の計算が不可能であった。また、4月における1日の平均学習時間は推薦入学者が1.1時間 (SD=1.4)、一般入学者が0.4時間 (SD=0.6) で、推薦入学者が有意に高い傾向にあった ($p < 0.1$)。そして、推薦入学者、一般入学者ともに7月は4月に比べて1日の学習時間が有意に多かった ($p < 0.01$)。読書頻度は、図1に示すように、推薦入学者においては4月と7月では変化がみられなかったが、1月から4月、7月にかけて有意に低下しており ($p < 0.05$)、一般入学者においても4月から7月にかけて有意に低下していた ($p < 0.05$)。なお、この調査時期以外におけるこの他の学習内容や1日の学習時間、性別については推薦入学者と一般入学者の間では有意差が認められず、各調査時期における学習内容、学習時間の群内比較では有意差は認められなかった。

2 推薦入学者の入学前課題学習前後の学習への動機づけの変化

推薦入学者が入学前課題学習を実施する前である1月および実施後である4月、7月の学習への動機づけ得点の変化を表2に示した。「11. 本を読むことによって豊富な知識を得たいと思いますか」の1項目において、1月に比べて4月には有意に低下していた ($p < 0.025$: Bonferroni の補正にて $p < 0.05$ 相当)。この1項目以外の

表1 推薦入学者・一般入学者の特性の比較

項目		全体(n=47)	推薦入学者(n=14)	一般入学者(n=33)	p値
年齢(歳)	mean±SD	18.1±0.4	18.1±0.5	18.1±0.4	n.s.
性別	男	11(23.4)	2(14.3)	9(27.3)	n.s.
	女	36(76.6)	12(85.7)	24(72.7)	
自主的に行っている学習内容	高校の授業の復習	1月	6(42.9)	—	n.s.
		4月	9(19.1)	4(28.6)	
		7月	4(8.5)	3(21.4)	
	英語	1月	—	4(28.6)	n.s.
		4月	6(12.8)	1(7.1)	
		7月	19(40.4)	6(42.9)	
	看護に関する学習	1月	—	4(28.6)	n.s.
		4月	0	0	
		7月	37(78.7)	12(85.7)	
	高校からの宿題・課題	1月	—	6(42.9)	n.s.
		4月	1(2.1)	1(7.1)	
		7月	1(2.1)	1(7.1)	
	その他の学習	1月	—	3(21.4)	n.s.
		4月	5(10.5)	2(14.3)	
		7月	4(8.5)	1(7.1)	
学習せず	1月	—	0	n.s.	
	4月	29(61.7)	7(50.0)		
	7月	7(14.9)	2(14.3)		
1日の学習時間(時間)	1月	—	2.6±1.0	n.s.	
	4月	0.6±0.9	1.1±1.4		
	7月	2.4±2.1 (有効n=46)	2.6±1.9		
				0.4±0.6 (有効n=32)	†
				2.2±2.2	**

t検定, χ^2 検定, Wilcoxon符号付順位検定, McNemar検定

n.s.: non-significant, †: p<0.1, *: p<0.05, **: p<0.01

n(%)

注: 推薦入学者の1~7月間のデータ比較は有効ケースが不十分なため統計量の計算が不可能であった

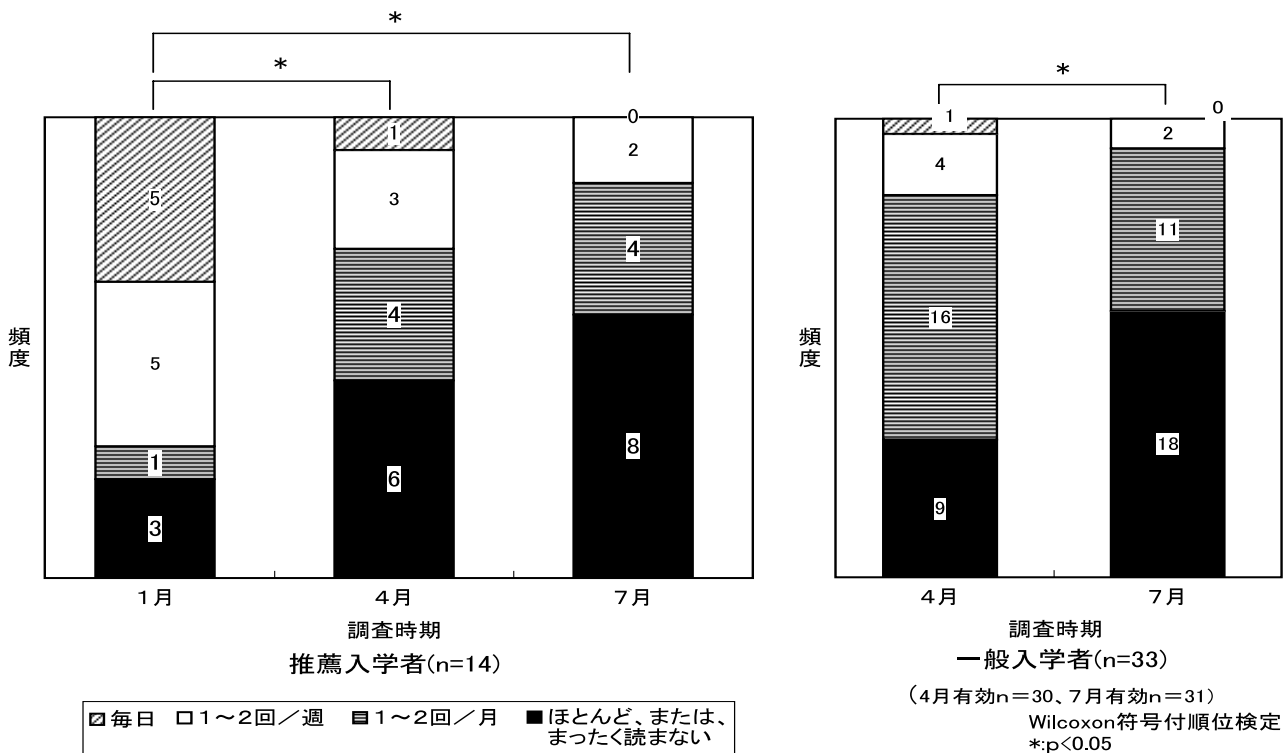


図1 推薦入学者と一般入学者の読書頻度

各項目および総得点は3回の調査時期において有意差はみられなかった。なお、一般入学者は「8. 大学生活での活動や読書から得ることを将来の仕事に役立てたいと思いますか」と「11. 本を読むことによって豊富な知識を

得たいと思いますか」の2項目において、4月に比べて7月には低下傾向にあった ($p < 0.1$)。この2項目以外の各項目および総得点は2回の調査時期において推薦入学者同様、有意差はみられなかった。

表2 推薦入学者、一般入学者の学習への動機づけ得点の比較

質問項目	推薦入学者(n=14)			一般入学者(n=33)	
	入学前課題学習前	入学前課題学習後		4月	7月
	1月	4月	7月		
1 将来めざす職業の専門知識を広く学びたいと思いますか	5(5-5)	5(4-5)	5(3-5)	5(4-5)	5(4-5)
2 将来めざす職業の専門知識のうち特に興味を持っていて学習したい特定の領域がありますか	4.5(3-5)	4.5(3-5)	5(3-5)	5(2-5)	4(2-5)
3 将来仕事で関わる人々の心理の理解のための学習をしたいと思いますか	5(4-5)	5(4-5)	5(3-5) †	5(3-5)	5(3-5)
4 大学の演習・実習で、将来めざす職業の実践に役立つ技術を身につけたいと思いますか	5(5-5)	5(4-5)	5(4-5)	5(4-5)	5(4-5)
5 将来めざす職業に関係する内容を学びたいと思いますか	5(4-5)	5(4-5)	5(4-5)	5(4-5)	5(3-5)
6 将来めざす職業に就くにあたり、人の気持ちを理解する能力を養っていききたいと思いますか	5(5-5)	5(5-5)	5(4-5) †	5(3-5)	5(3-5)
7 将来めざす職業に必要とされる態度を身につけたいと思いますか	5(4-5)	5(5-5)	5(3-5) †	5(4-5)	5(2-5)
8 大学生活での活動や読書から得ることを将来の仕事に役立てたいと思いますか	5(2-5)	4(1-5)	4(2-5)	5(3-5)	4(3-5) †
9 将来仕事で関わる人に応じた働きかけ・対応の仕方を学びたいと思いますか	5(4-5)	5(5-5)	5(4-5) †	5(3-5)	5(3-5)
10 日頃より読書によって興味を持ったことに関して、さらに自分で深く調べたいと思いますか	4(2-5)	3.5(1-5)	4(2-5)	4(2-5)	4(1-5)
11 本を読むことによって豊富な知識を得たいと思いますか	4(2-5)	4(1-5) *	4(2-5)	4(3-5)	4(3-5) †
12 人間的に成長するために本を読みたいと思いますか	4(2-5)	4(1-5)	4(1-5)	4(2-5)	4(3-5)
13 本を読むことによって常に自分の精神面を強化していきたいと思いますか	4(3-5)	4(1-5)	4(2-5)	4(1-5)	4(3-5)
14 将来仕事で関わる人々との円滑な交流のためにコミュニケーション能力を養いたいと思いますか	5(5-5)	5(5-5)	5(4-5) †	5(3-5)	5(3-5)
15 様々な活動、体験によってさらに見聞を広げたいと思いますか	5(4-5)	5(4-5)	5(4-5)	5(3-5)	5(4-5)
総得点	69.0(60-75)	69.5(53-73)	68.5(52-74)	69(56-75)	68(57-75)

Wilcoxon符号付順位検定, Sign検定, Mann-Whitney U検定

median(min-max)

* : $p < 0.025$ ($p < 0.05$ 相当: Bonferroniの補正), † : $p < 0.1$

3 推薦入学者、一般入学者の学習への動機づけの比較

推薦入学者と一般入学者の学習への動機づけ得点の比較を表2に示した。4月における各質問項目における両群の比較では、「3. 将来仕事で関わる人々の心理の理解のための学習をしたいと思いますか」「6. 将来めざす職業に就くにあたり、人の気持ちを理解する能力を養っていききたいと思いますか」「7. 将来めざす職業に必要なとされる態度を身につけたいと思いますか」「9. 将来仕事で関わる人に応じた働きかけ・対応の仕方を学びたいと思いますか」「14. 将来仕事で関わる人々との円滑な交流のためにコミュニケーション能力を養いたいと思いますか」の5項目において、推薦入学者が高い傾向にあった($p < 0.1$)。4月においてはこの5項目以外の各項目および総得点において両群に有意差はみられなかった。なお、7月においてはすべての質問項目および総得点に両群に有意差はみられなかった。

V 考察

1 推薦入学者の入学前課題学習前後の学習への動機づけの特徴

本研究では入学前課題学習による学習への動機づけの効果を検討することを目的に、独自に作成した質問紙にて、まずは推薦入学者の入学前課題学習前後の学習への動機づけを比較した。入学前課題学習前である1月と課題学習後である4月、7月には学習への動機づけに変化がなく、「11. 本を読むことによって豊富な知識を得たいと思いますか」の1項目のみ1月に比べて4月に有意に低下していた結果が得られた。この結果を先行研究や対象者の特性、一般入学者の4月から7月の学習への動機づけの変化の結果等の観点から以下に考察する。

今回の調査では推薦入学者は1項目以外入学前課題学習前後に学習への動機づけに変化はみられなかった。したがって、入学前課題学習に学習への動機づけを向上させる効果はないものと考えられる。ただ、入学前課題学習を実施しない場合の学習への動機づけの経時変化とも比較しなければ正確な効果は言及できないものの、推薦入学者は大学入学以前に学習意欲が低下傾向にあるという先行研究結果¹⁾を鑑みると、入学前課題学習には学習への動機づけを向上する効果はないものの、学習への動機づけを維持する作用が推測される。また、本研究における入学前課題学習は推薦図書を読書をするのであったが、奇しくも読書による知識獲得に関する動機づけのみ課題学習後に低下していた。推薦入学者の入学前課題学習前後の読書頻度の変化をみると、入学前課題学習前である1月に比べて学習後である4月、7月には有意に読書頻度が低下しており、読書頻度の低下とともに実際

読書による知識獲得に関する動機づけも低下していることがいえる。入学前課題学習を実施しなかった一般入学者であっても「11. 本を読むことによって豊富な知識を得たいと思いますか」と「8. 大学生活での活動や読書から得ることを将来の仕事に役立てたいと思いますか」といった読書による知識獲得に関する項目が入学直後である4月に比較して7月には有意に低下しており、実際読書頻度も4月に比較して7月には有意に低下している。これは入学1年後の看護学生は読書頻度が低下するという南雲ら¹²⁾の研究結果と同様の傾向を示している。この原因として桜井¹³⁾は宿題が多くなることによる読書時間が少なくなっていることを推測しており、安藤⁴⁾は「忙しくて読む暇がない」を挙げている。このことから考えると、今回の対象者も大学での学習進度が進行するにつれて時間的余裕がなくなってきたことが影響し、読書頻度が低下し、これに伴い読書による知識獲得に関する動機づけも低下していることが推測される。読書によって知識を広げようとする人ほど内発的動機づけが高い¹⁴⁾ことから、入学前課題学習だけで読書による学習を完結することなく、大学入学後も継続して読書という手段で学習できるような学習内容を検討していく必要があるものと考えられる。

2 推薦入学者と一般入学者の学習への動機づけの特徴

本研究ではさらに入学前課題学習による学習への動機づけの効果を検討するために、独自に作成した質問紙にて入学前課題学習を実施した推薦入学者と実施しなかった一般入学者の学習への動機づけも比較した。推薦入学者が入学前課題学習を実施した直後である4月には、総得点と10項目に関しては有意差がみられなかったが、将来めざす仕事に求められる態度や、仕事で関わる人の心理や気持ちへの対応、コミュニケーション能力に関する動機づけといった5項目に関しては入学前課題学習を実施した推薦入学者の方が高い傾向が認められた。

看護学科に入学時の学生は期待する看護師像として、患者の気持ちになって考え看護できる看護師を上位に挙げており¹⁰⁾、「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」や「患者の不安に対応できる看護師」「患者や家族とのコミュニケーションを大切にできる看護師」をめざしている¹⁷⁾。本研究の対象学生も看護学科1年生であり、このような看護師像を期待しめざす傾向にあるものと思われ、実際この看護師像に相応する学習への動機づけをもっていたものと推測される。今回の調査では殊に推薦入学者の方がこれらの学習への動機づけが高い傾向にあり、推薦入学者は人とのかわりに関心が高いことがうかがえる。これらの関心や学習への動機づけは入学前課題学習前後で

変化はみられなかったことから、入学前課題学習によって新たに喚起されたものではなく、入学前課題学習前からすでに人とのかかわりに関心が高く、これらの学習への動機づけが高い対象であったことが推測される。また、看護学科への入学後、学生は実習での患者とのコミュニケーションに困っているという先行研究結果¹⁸⁾を考慮すると、入学前より関心の高い、人とのかかわり方やコミュニケーションスキル向上に関連した学習への動機づけを強化できるような入学前課題学習のあり方を検討していく必要があると考えられる。

Ⅵ 看護学科における推薦入学者の学習への動機づけ向上に有効な大学入学前課題学習のあり方への示唆

以上の結果・考察から、推薦入学者が実施する入学前課題学習には学習への動機づけを向上する効果はないものの、学習への動機づけを維持する作用があることが推測された。加えて、看護学科の推薦入学者の特徴として、読書頻度および読書による知識獲得に関する学習への動機づけが低下する傾向にある一方で、人とのかかわりやコミュニケーションに関する学習への動機づけが高いことが明らかになった。

以上から看護学科における推薦入学者の学習への動機づけ向上に有効な大学入学前課題学習のあり方として、

1) 入学前課題学習から入学後まで継続して読書を用いた学習の設定、2) 現に関心の高い学習への動機づけを強化するために、人とのかかわりやコミュニケーションスキルを体験的に学習できるように、課題内容の変更を検討する必要性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました対象者の皆様に心から感謝申し上げます。なお、本研究論文の一部は第18回日本看護学教育学会学術集会にて発表した。

引用文献

- 1) 三吉友美子, 足立はるゑ, 大西文子ら: 入学前教育の試み-推薦入学予定者への入学前課題の実施と評価-, 看護教育, 46: 896-900, 2005.
- 2) 宇都宮登雄, 藤本哲男, 角田和巳: 推薦入試合格者を対象とした在宅型学習支援システムの構築, 特別教育・研究報告集(芝浦工業大学総合企画部), 23-26, 2003.
- 3) 前掲誌2)
- 4) 中山かおり, 内藤和美, 高木タカ子: 1日野外生活体験学習(デイキャンプ)の看護学導入学習としての有効性の検討, 群馬パース学園短期大学紀要, 6(2): 41-54, 2004.

- 5) 前掲誌1)
- 6) 石山香織, 渋谷優子, 新谷恵子ら: 看護大学における推薦入学決定者の入学前課題学習による学習への動機づけ, 日本看護学教育学会誌, 18(2): 23-30, 2008.
- 7) 石山香織, 新谷恵子, 渋谷優子ら: 看護学科における推薦入学者の大学入学前課題学習6ヶ月後の学習への動機づけ-一般入学者との比較検討-, 新潟医療福祉学会誌, 8(2): 掲載決定, 2008.
- 8) 伊田勝憲: 学習動機づけの統合的理解に向けて-課題価値研究の意義と今後の方向性-, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, 49: 65-76, 2002.
- 9) 前掲誌6)
- 10) 前掲誌7)
- 11) 前掲誌2)
- 12) 南雲美代子, 大島弓子, 滝内隆子ら: 看護学生の入学時・2年次の読書状況とその変化, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 4: 9-15, 1999.
- 13) 桜井茂男: 読書量と内発的動機づけの関係Ⅱ, 読書科学, 28(4): 140-144, 1984.
- 14) 安藤宣子: 看護学生の読書に対する意識調査, 図書館学, 64: 11-17, 1994.
- 15) 桜井茂男: 読書と内発的動機づけの関係, 読書科学, 29(4): 157-161, 1985.
- 16) 小野寺杜紀, 鎌田みゆき, 大塚真理子ら: 看護学生の学習及び専門職業的態度に関する考察(第1報), 埼玉県立衛生短期大学紀要, 15: 25-32, 1990.
- 17) 望月初音, 関千代子, 富田幸江ら: 学生の看護への志望動機とめざす看護師像-看護学科第1回生入学時の調査から-, つくば国際短期大学紀要, 33: 105-119, 2005.
- 18) 寺島喜代子: 看護学生の学習態度および職業志向に関する一考察-入学3ヶ月の変化を通して-, 福井県立大学看護短期大学部論集, 創刊号: 33-44, 1994.